

組織名	青森公立大学地域連携センター
-----	----------------

1 組織概要

所在地	青森県青森市合子沢字山崎153-4
TEL	017-764-1589
FAX	017-764-1593
URL	http://www.nebuta.ac.jp
e-mail	renkei@b.nebuta.ac.jp
設立	2011年4月1日
設置都市等	公立大学法人 青森公立大学
代表者	香取 薫(センター長/青森公立大学長※兼務)

2 組織動向

(1)沿革	
設置経緯	1998年、青森公立大学の附置研究機関として地域研究センターが開設された。その後、大学法人化に伴い組織の変更があり、2011年4月に新たに地域連携センターが設立され、地域研究センターは地域連携センターの下部組織となった。2018年4月に、地域研究センターは地域連携センターに統合された。
見直しの動向	2005年度より、活動をより一層、組織的に展開するとともに、「研究」「教育」「コンサルテーション」「インキュベーション」の4つを事業活動の柱とし、活動基盤の整備および展開に着手した。これに伴い、事業活動をさらに展開していくとともに、外部関係機関とのプロジェクト、市民との共同研究や事業の企画、実施を進めている。
役割(2021年時点)	○研究…広域的な地域研究の拠点、市民・企業・行政との共同研究の場となる。 ○教育…地域社会の幅広い年齢層や職業の方々の学びに貢献する(講演会、公開講座)。 ○コンサルテーション…地域の諸活動(自治体、企業)への情報提供や助言活動を行う。 ○インキュベーション…地域社会事業や活動に対し、多角的な視点から支援、協力する。
(2)組織体制	
設置形態(択一)	<input type="checkbox"/> 自治体の内部組織 <input type="checkbox"/> 常設の任意団体(提言等を行う会議体型の団体も含む) <input type="checkbox"/> 公益法人(財団法人・社団法人) <input checked="" type="checkbox"/> 大学の附置機関 <input type="checkbox"/> 広域連合 <input type="checkbox"/> その他(具体的に:)
常勤職員数	6人
うち常勤研究員数	1人
非常勤研究員数	0人
専門性確保に関する特徴(複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 専門的な知識を有した研究員の採用 <input type="checkbox"/> 外部有識者の活用(研究員として採用した者を除く) <input checked="" type="checkbox"/> 大学・非営利活動法人等と連携した研究の実施 <input type="checkbox"/> 設置市の企画部署と連携した研究の実施 <input type="checkbox"/> 設置市の関係部署と連携した研究の実施 <input type="checkbox"/> その他(具体的に:) <input type="checkbox"/> 特に行っていない
庶務体制	研究所内で専任の事務局職員が担当している。
市民参加、外部連携	県内自治体をはじめ、産官学金連携との協定を締結し、連携して活動を行っている。

(3)会計		
会計規模※人件費・間接費(オフィス賃借料、水道光熱費等)は含まない		
2021年度予算	10,680 千円	
2020年度決算	4,959 千円	
2019年度決算	9,105 千円	
自治体の内部組織以外の団体の場合の事業活動収入の主な内訳 (多い順に選択)	順位	収入種別
	1位	補助金等収入
	2位	その他(具体的に:目的積立金取崩収入)
	3位	その他(具体的に:授業料等)
	4位	
自治体の内部組織の場合の事業活動収入の主な内訳 (多い順に選択)	順位	収入種別
	1位	
	2位	
	3位	
	4位	

3 活動動向

(1)活動実績	
定期刊行物	地研ニューズレター(年1回)
(2)活動のマネジメント状況	
ア テーマ決定 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 設置市からの要請 <input type="checkbox"/> 外部有識者等からの助言・示唆 <input type="checkbox"/> 貴団体・組織で、設置市の総合計画等に明記された重要課題から選択 <input checked="" type="checkbox"/> 貴団体・組織で自ら発案 <input type="checkbox"/> その他(具体的に:)
イ 情報発信 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 設置市の議員や幹部職員に、報告や提言を行う <input type="checkbox"/> 設置市の関係部署に、報告や提言を行う <input type="checkbox"/> 設置市の庁内の広範囲に、成果物を配布する <input type="checkbox"/> 報告会を実施する <input checked="" type="checkbox"/> 日常的活動を、HP・メールマガジン・ニューズレター等で周知する <input type="checkbox"/> その他(具体的に:) <input type="checkbox"/> 特に行ってない
ウ 活動の評価とその反映 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 設置市の行政評価制度により評価を受けている <input checked="" type="checkbox"/> 運営委員会等、貴団体・組織の運営に関わる機関から評価を受けている <input type="checkbox"/> 外部有識者から評価を受けている <input checked="" type="checkbox"/> 報告会・アンケート等の機会を設けて、評価を受けている <input type="checkbox"/> その他(具体的に:) <input type="checkbox"/> 特にそういう機会はない

4 特記事項

研究員の業務分担	地域連携センター長が統括し、兼任研究員(学部・大学院担当教員兼務)が自ら発案した研究プロジェクトを行っている。専任研究員は、自らの研究の他、その他の地域連携センター事業を担当している。
研究員の専門性育成の手立て	
研究員のキャリアパス等	
その他	○当センターは青森公立大学大学院棟にあるが、青森駅前アウガ6階に「まちなカラボ」(多目的サテライト)を設置し、必要に応じて2拠点で活動している。

5 2021年度に実施した調査研究

調査研究名	調査研究の概要
青森県内の外国人材と多文化化についての研究事業	<p>青森県では周知のように人口減少に拍車がかかり、現在人手不足が深刻な状況になっている。特に青森県の産業の中でも、一次産業は生命線ともいえるものにもかかわらず、その人手不足、後継者不足は解消されていない。このため、ここ2～3年にかけて労働力不足を解消するという視点で、外国人材について調査を行っている。この結果、新型コロナウイルスの対策がしっかりとできた際には、さらなる人手が必要ということがわかってきた。こういった問題意識から、本研究はさらに聞き取りを中心として、県現状を把握し将来的には労働力ではなく、地域の仲間として人を受け入れることが可能かを問うものである。</p> <p>https://www.nebuta.ac.jp/wp-content/uploads/2022/03/b66ae4a668b4b55fe4ab0c04894d2267.pdf</p>

<p>灯籠文化圏に関する研究事業</p>	<p>青森県の祭礼は大きく分けて2つの源流を持つと考えられる。一つは太平洋側からの山車文化、もう一つが日本海側からの灯籠文化である。これらの二つが融合しているのが、青森の祭文化の特徴といえる。しかしながら、こういった視点から県内の祭を分析したものは皆無に等しく、文化・伝統に関する学術的な記述が少ない。唯一『青森ねぶた誌』に若干の記述がある程度である。そのため今回は東北の灯籠文化圏を調査し、青森県の祭の源流を明らかにすることが目的となっている。</p> <p>今回の事業は中国大陸から伝わり、富山、新潟、秋田に伝わった祭りにおける灯籠文化を調査することにより、青森県の祭の源流を探り、学術的に提示することにある。これによって、青森県の祭が日本の中でも、太平洋側、日本海側の文化を融合させた、文化・伝統の面でも高度な文化的構築物であることを述べていくものである。この点を強調することで、全国さらには全世界へ青森県の文化をアピールすることができ、これまで以上に注目を集めることができるであろう。そのためにまずは、灯籠文化が日本海側の各地でどのような変化をとげ、そしてどのような形で青森県に伝わってきたかを分析していくことにする。さらには京都祇園祭を発祥とする、山車文化との融合について考察していくことを目的としている。</p> <p>https://www.nebuta.ac.jp/wp-content/uploads/2022/03/c8107880a47d89b879edb92cd48947e5.pdf</p>
<p>遠隔英会話授業における効果的なeポートフォリオシステムの構築事業</p>	<p>2021年度はeポートフォリオシステムの構築とその実施(運用)事業を行った。具体的には会話者のパフォーマンスを文字化し、その使用単語や慣用語表現、使用単語の難易度、センテンスの数、パフォーマンス全体の難易度、修正箇所等を学習者に提示し、学習者の試行プロセスを外化することにより、自己調整(self-regulation)や内省(reflection)を促し、本格的運用に向けて、その実用性と有効性を確認することが事業の目的であった。青森県内の大学生数名を参加者とし、週に1回程度(1回1時間程度)のレッスンを約3か月間受講してもらい、毎回レッスン後学習エビデンスを提示した。参加者が学習エビデンスを確認した後、学習者本人からも自己到達度や学習記録などをシステムに入力し、自己修正、自己調整を促した。また、レッスンの後半には、参加者へのカウンセリングを行い、学習者それぞれに効果的な学習方法を提案する予定としていた。しかしながらCOVID-19感染拡大防止の観点から、参加者と実際に対面しての最終段階のインタビューやグループでのインタビューは中止とした。また、最終的なインタビュー結果を得られなかったことから、学会誌への投稿も中止とした。</p> <p>https://www.nebuta.ac.jp/wp-content/uploads/2022/03/fc4a77ca686af32447692fbb36646e7.pdf</p>
<p>イノベーション創造と自治体経営戦略研究事業</p>	<p>今日、自治体経営戦略において、イノベーション創造への政策と実践は、重要性を高めてきている。自治体経営において、伝統的経営から、NPM(新公共経営)への転換が行われ、日本においても、1990年代後半より行われるにいたる。その後、理念を重視した新公共サービスへの注目が高まるものの、地域経営におけるイノベーション創造政策への戦略的対応が十分とはえない。本事業では、グローバルな情報ネットワーク社会の構造変動の中で、イノベーション創発に当たり、どのような政策対応と地域経営における協働の営みを行っていく必要があるのか、検討を行う。そのために理論及び事例研究を踏まえつつ、プロトタイプモデルの実践的研究を行うものである。</p> <p>https://www.nebuta.ac.jp/wp-content/uploads/2022/03/23ad02faba2d907cd789771da93f9de5.pdf</p>
<p>浅虫地域力の強化事業</p>	<p>本事業は、浅虫の魅力を多くの人々に知ってもらって住民との交流の輪を広げ、地域活性化を目指すものである。春夏期間は、浅虫の海で楽しめるアクティビティ商品「大学生限定SUP体験」と、夏休みの家族連れや大学生をターゲットにする「青森県民応援割引宿泊プラン」を企画・商品化した(4-Ride、南部屋・海扇閣、秋田屋により実施運営)。秋には「文化祭in浅虫(2021年10月30日)」と「浅虫の和(2021年10月31日)」のイベントをゆ〜さ浅虫施設および温泉街で開催した。</p> <p>https://www.nebuta.ac.jp/wp-content/uploads/2022/03/ec05d66330a6854e51807da33d2fbd41.pdf</p>
<p>青森県版中学校英語シャドーイング教材の開発事業</p>	<p>本事業の目的は、青森県版のシャドーイング用中学校英語教材を作成することです。シャドーイングとは、聞こえてくる音声を遅れないように即座に繰り返しながら声に出すトレーニングで、音声知覚段階で有効であるとされ、これを繰り返すことによって音韻知覚処理が自動化され、認知負荷が低くなると言われています。つまり、リスニング力が向上するということです。またモデルの音を精聴しそれをまねるため、英語特有の発音やプロソディ(リズム、強勢、抑揚等)、スピードなども身に付きます。</p> <p>https://www.nebuta.ac.jp/wp-content/uploads/2022/03/ec05d66330a6854e51807da33d2fbd41.pdf</p>
<p>「少子高齢化地域における生業および生活の在来知に関する再評価と活用」事業</p>	<p>日本の地方自治体では、農林水産業は地域を支える基幹産業といえる。そこで研究事業「少子高齢化地域における生業および生活の在来知に関する再評価と活用」では、2021年度、地域の食資源を活用した地域ブランド構築について、第1次産業の盛んな青森県において検討した。具体的には、食に関する地域ブランド形成のため地域団体商標を活用した際の効果と課題を考察した。まず全体像を把握するために日本全国の事例を取り上げ、続いて青森県における現状と今後の可能性を論考した。</p> <p>https://www.nebuta.ac.jp/wp-content/uploads/2022/03/ee837b90b99f4d33bb14ff832380a6f7.pdf</p>